

令和5年度第1回富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議

1 日 時：令和5年11月6日（月）13:30～15:00

2 場 所：富山県民会館 6階 611号室

3 説明事項

（1）富山県からの説明

- ・ 県内経済の状況と県の取組みについて

（2）中部経済産業局、富山労働局からの説明

- ・ 国の中小企業振興施策等について

委員からの主な意見（要旨）

（1）中小企業支援施策、国の総合経済対策について

- ① 国の経済対策について、税制を変更すると混乱が起こるため、今後の行方が心配。
- ② 物価高により買い控えや外出、特に外食控えが顕著になっており、飲食店等を支える団体としては、プレミアム商品券の一層の拡大やポイント制度等、消費喚起は非常に重要。
- ③ サプライチェーンの中で責任ある会社が価格転嫁分をみていかないと、中小企業は立ち行かなくなる。中小企業もそれぞれの役割を担っており、働きがい・やりがいをもって働く大前提として「賃金」があることを、経済界の皆さんにも理解いただきたい。
- ④ 消費者間の経済格差が二層分離している実態を、事業者の皆様にも知ってもらいたい。消費者間の情報の格差も大きいいため、事業者の皆さんに支援・情報提供をお願いしたい。

（2）中小企業支援施策の周知方法について

- ① 実際の中小企業の経営者は支援施策を知らない。施策を中小企業に知らせる方法を検討すべき。
- ② たくさんの支援策があるが、個人事業者が全部分かっているわけではない。ぜひ、商工団体の職員に徹底して周知いただき、伴走型支援を強固なものにしていきたい。
- ③ 専門家派遣に関して、各支援機関の窓口の集約や各機関の特色を明確にすることをご検討いただきたい。
- ④ コロナ禍から平時への移行ということで、事業者の課題が多岐に渡っている。幅広い支援策を事業者に直接お会いする中で届けていく形で、民間の金融機関と一緒に協力して周知していきたい。

(3) 人材確保・育成、働き方について

- ① 人材確保に向けた支援策について、幅広く、県内中小企業が参加しやすいイベントの開催など含めご検討いただきたい。
- ② 次世代の経営者を育てる事業が見受けられない。次世代の経営者育成は、大企業はできるかもしれないが、中小企業ではできない。小さい企業が大きな塊になればできることもある。
- ③ 男性労働者の育児休業の取得に関して、連続5日ではなく、通算して何日などであればありがたい。育児休業を取る男性の周りの方に対する支援を手厚くすることで、さらに育児休業の取得が進むと思う。すぐに変えていかなければならない。
- ④ 人口減少が進むなかで、高年齢層の働き方も考える必要がある。65歳まで働くことは当たり前で、会社の中で必要不可欠な存在。安心して働ける富山県に向けて、ご理解、ご協力をいただきたい。
- ⑤ 従業員100人以下の中小企業では、DXと言われてもピンと来ていない。デジタル革命による生産性向上という視点から、施策を進めていただきたい。
- ⑥ DXという言葉は抽象的で実態が捉えにくいいため、ChatGPTをどう使うかという観点から始めることも一つの方法。「生成AIの活用」という具体的な観点からDXを進めていただきたい。
- ⑦ 企業側のニーズ調査に、生成AIを使いこなせる人材の要望が出ており、デジタル人材の育成が必要。育成すべき人材像や教育プログラム体系を見直し、教える教員や事務系職員の育成も必要。
- ⑧ 教育機関として、産学連携という形での協力はできるため、中小企業で技術革新を考えている方は相談いただきたい。
- ⑨ 学生を育成する立場からは、必要とされる人材の輩出を目標としており、ニーズのマッチングが大事。
- ⑩ 高校生に富山県の企業の魅力をどのように伝えるか課題。進学する生徒も大学だけを見るのではなく、将来どんな仕事に就きたいかを考えることが重要。富山県には素晴らしい企業がたくさんあることを周知できれば良い。
- ⑪ 外国人材の活用について、具体的な外国人材の必要性に関してのコミュニケーションの橋渡しをしていただければ、教育機関としても、ダイバーシティの観点から地域貢献ができる。